

神奈川県立あおば支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和7年度 神奈川県立あおば支援学校 第4回学校運営協議会	
開催日時	令和7年11月26日(水) 9:30~11:30	
開催場所	あおば支援学校 会議室	
出席者	学校運営協議会委員10名(3名欠席)、本校職員:事務局7名 オブザーバー参加3名、視察14名	
次回開催予定日	令和7年11月26日(水)を予定	
問合せ先	神奈川県立あおば支援学校 副校長 鈴木 智子 電話 045-978-1161 FAX 045-978-1160	
下欄に掲載するもの	議事録	公開を概要とした理由
審議・会議経過	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 学校長挨拶</p> <p>○最近の学校の様子</p> <p><あおばフェスタの紹介></p> <ul style="list-style-type: none"> ステージ発表の様子、販売活動の様子、高2のカフェの様子。 七尾特別支援学校への義援金を募った。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 給食夢コンテストで入賞者あり。 竹原会長CS推進名誉マイスターに就任。 3Dプリンターで教材、教具を作成し活用が始まっている。 <p>(3) 学校運営協議会</p> <p>○ここから進行、竹原会長</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日は、来年度に向けて進めていくための協議を行う。オブザーバーの方々にも情報をお聞きながら進めたい。 <p>⇒熟議を振り返るために廊下の掲示物(熟議のまとめ)を確認する。</p> <p>～作業部会～</p> <p><本日のファシリテーター></p> <p>切れ目ない支援部会・・・佐々木委員 地域連携部会・・・佐藤委員 地域学校協働本部・・・玉置委員</p> <p>『切れ目ない支援部会』</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後に利用できる施設が少ない。 移動手段が少ない。担い手が少ない。 訪問診療があるとよい。 医療へのかかわり方の勉強会があるとよい。 グループホームの空き情報等、情報収集の方法全般を知りたい。 <p><今後に向けて></p> <p>(学校ができること、地域ができること、分けて整理した。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会を実施したい。 	

- ・積極的に情報収集を行う。

『地域連携部会』(防災をテーマに)

(ハード面とソフト面に分けて整理した。)

- ・非常用電源の確保が課題（安定的に供給可能なものが必要）。
- トヨタが県と協定を結んでいる。学校がトヨタと結ぶことは可能か？
- ・将来的には、浸水地域であることから、上の階に電源が置けると良い。
- ・あおば支援学校を福祉避難所とするためには区役所との連携が必要。
- ・カードゲーム等を活用した防災学習の取り組みもある。
- ・時間帯（朝、夜、登校時、下校時・・・）それぞれを想定した対策が必要。

『地域学校協働部会』

- ・地域とのつながりという点で、良さが沢山挙げられた。
- ・保護者、地域の方々が支える体験的学習で子どもたちの学びが深まっている。

<課題>

- ・ボランティア、地域の方々の世代交代をどう進めていくか。
- ・教職員は入れ替わるので、地域貢献の引継ぎが必要。
- ・PTA のOB会的なものがあるとよい。
- ・地域の行事は土日が多い。休日授業参観時に参加できるか。

<すぐにできること>

- ・学校区での年間行事の共有。

○「これだけは来年度やりましょう」というものに、丸を付ける。

～重点方策の発表～

『地域学校協働部会』

- ・地域人材活用の継続。
- ・単元ごとの地域とのつながりの構築（担当者が変わっても継続できるように）。
- ・学校区での年間予定の共有。
- ・保護者OB会の発足

<他部会より>

- ・継続するために、分担して担当者を決めるといいのではないか。
- ・年間予定共有の中に、地域の予定も入れるとよいと思う。

『地域連携部会』

- ・非常用電源の購入。
- ・登下校時の安全対策シミュレーションを、カードゲームを取り入れながら行う。
- ・地域防災拠点との連携を進める。

<他部会より>

- ・非常用電源の購入を是非進められるとよい。
- ・地域との協働にあおばまるも係わっていく。
- ・（七尾の視察に参加した石塚委員より）発災時の業務の継続計画を作成、訪問看護ステーションで防災時のケア計画を作成、横浜市のホームページで「災害時の電源確保について登録する制度」あり、既存の福祉避難所の収容人数確認中等の

	<p>情報提供をいただいた。</p> <p>『切れ目ない支援部会』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と発信が大事である。 ・学校は外から見ると、まだ敷居が高い。毎日の様子を情報発信できるとよい。家族、先生以外との係わりの構築が卒後に生かされる。個人情報の壁があるが、そこをクリアしながら、情報発信ができるとよい。 ・在校生はマチコミを使用。卒後、あおばまる管理のマチコミに登録してもらっている。 <p><他部会より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(PTA会長である高橋委員より) 卒後の役員が集まれるコミュニティーを作る。卒業生の保護者としボランティアに参加できるとよい。 ・(藤岡校長) 年間計画に位置付けていく。年間行事を共有して進めていくのはとてもよい。 ・(梅木委員) 地域と情報を共有するにあたり、学校だよりを地域で共有している。 <p>～全体を通して～</p> <p>(横澤初代校長)</p> <p>全体を通して、立ち上げる時に地域の皆様と共に話をしてきて、夢に思い描いていたものが形になっている様子を見て、感動している。電気室が半地下に作られたので、そのことを解決するための話をしてもらっていてありがたい。</p> <p>(群馬県沼田特支運営協議会会长)</p> <p>意見を言うだけではなく、関わっていく、ということで話し合われている。学校の中で、学校のことを考えているのだが、地域のことも考えている。</p> <p>Q：誰が進めるのか？</p> <p>A→竹原会長：学校、地域…皆が当事者になる。それが、コミスク。</p> <p>(静岡県磐田市の育成会、袋井支援学校より)</p> <p>皆さんが楽しんで会議をしていて驚いた。様々な人が意見を出し合って連鎖していく様子が良いと思った。再来年、新校が始まる。参考にさせてもらいたい。</p> <p>(C Sマイスター朝倉 氏)</p> <p>継続、繋がる、共有する…これがワクワクの中で進んでいく。そして、子どもたちのためになる。</p> <p>(藤岡校長)</p> <p>たくさん的人が見に来ていたいた中で開催でき、ありがたい。校長一人では進められないことばかり。皆で協力しながら進めていくことが校長の役割。</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・令和7年度 第2回学校運営協議会・職員研修まとめ